令和４年度「ふくしまを十七字で奏でよう」作品集

【主　催】
福島県教育委員会

令和４年度 ふくしまを十七字で奏でよう

～これまでと　これから繋ぐ　十七字～

絆部門　最優秀賞

つくりたい　きれいなちまき　母さんと（子）
子に伝え　三角ちまき　祖母の技（母）

さんかんび　まだかまだかと　ふりかえる（子）
後ろ向く　我が娘に合図　前見てと（母）

糸通し　いらつくばあばに　孫の声（祖母）
かしてみな　ほら通ったよ　針のあな（孫）

「まだ子ども」「もう大人だし」　使い分け（子）
都合良く　甘えていばる　お年頃（母）

母の日に　スマホ片手に　キッチンへ（子）
調理法　ググった履歴　見ないふり（母）

ふるさと部門　最優秀賞

おみやげに　もらったあかうし　これなあに？（子）
頭垂れ　災い除けて　つなぐ明日（母）

ユニフォーム　袖の刺繍が　県背負う（子）
「福島」の　二文字輝き　誇らしく（母）

喋らねば　凍えてしまう　激震地（子）
語り継ぐ　あの時君は　三歳児（母）

野馬追で　父の背を見て　あこがれを（子）
いつの日か　親子で出たい　夢語る（父）

じゃんがらの　音色に踊る　僕の足（子）
足さばき　いわきの夏の　リズム継ぐ（母）

絆部門　優秀賞

守られた　命の重み　刻み込み（子）
語り継ぐ　ばあばの背中の　たくましさ（母）

ほら見てよ　上手にできたよ　やぎぎょうざ（子）
玉ねぎは　入れてないのに　目にしみる（母）

兄妹で　さわいで怒る　お母さん（子）
ケンカダメ！　言ってる私が　ケンカ腰（母）

ガラスごし　笑顔で手をふる　百二さい（子）
うるむ目の　祖母の手握る日　待ち望む（母）

母さんと　手つなぐ前に　辺り見る（子）
離した手　視線の先に　同級生（母）

ふるさと部門　優秀賞

おとうとが　ふくしまなまりに　なりました（子）
大丈夫だぁ　福島なまり　あたたかい（母）

極太の　おぼんに食べる　祖父の味（孫）
腰曲げて　ふんだうどん粉　こしがある（祖父）

祖父のジャム　夏の思い出　よみがえる（子）
色褪せぬ　故郷の味に　舌鼓（母）

釣り竿の　先に広がる　青い海（子）
幾千の　涙の先に　子の笑顔（母）

夜ノ森の　桜へ集う　みな笑顔（子）
とこしへの　桜のトンネル　子と歩く（母）

お問い合わせ先

福島県教育庁
社会教育課

〒960-8688　福島市杉妻町２番16号（西庁舎７階）

TEL 024-521-7799

URL▶https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70016a/

社会教育課HP

社会教育課Twitte

協賛企業・団体（50音順）

会津中央乳業株式会社、株式会社岩瀬書店、株式会社ダイユーエイト、株式会社テレビユー福島、株式会社ナカジマエレテック、株式会社福島銀行、株式会社リオン・ドールコーポレーション、公益社団法人福島青年会議所、伊達物産株式会社、東信建設工業株式会社、福島中央テレビ、福島民報社、福島民友新聞社、有限会社吾妻印刷、酪王協同乳業株式会社

この事業は、「福島県東日本大震災子ども支援基金」により実施しています。

絆部門 佳作

あせいっぱい　やさいそだてる　家のにわ（子）
横見ると　肩に並んだ　子の笑顔（母）

あと一年　じいじの命　涙出る（孫）
うれしいな　死ぬことよりも　逢えたこと（祖父）

なつやすみ　おとまりチャレンジ　そぼとねる（孫）
思い出す　豪快な寝相　親ゆずり（祖母）

父の手で　育てた牛を　送り出す（子）
子育てと　重ねる想い　競りの朝（父）

夢の舞台　友に声援　松葉杖（子）
悔しさに　離れて寄り添う　競技場（母）

夏祭り　鳴子鳴して　舞う私（子）
最後かな　鳴子片手に　泣く私（母）

色白な　兄の腕見て　嫉妬する（妹）
日焼け肌　努力の証（あかし）　気にするな（兄）

夏祭り　父の浴衣で　気合い入れ（子）
浴衣着に　若き自分を　重ね見る（父）

音のない　祖母の生活　耳になる（孫）
孫の声　筆談しながら　思い出す（祖母）

君（きみ）を見（み）て　やってみたいと　ふみ出（だ）した（友人）
楽しいべ　ボッチャ大会　また出るべ（友人）

ふるさと部門 佳作

うまいもも　えらぶてんさい　カブトムシ（子）
桃の出来　今年も確認　祖父と孫（母）

あっあそこ　夜空楽しむ　ほたるたち（子）
子へ孫へ　この風景を　いつまでも（母）

小峰城　その石垣の　壮大さ（子）
みちのくの　歴史と歩み　子と共に（父）

三年の　思いを込めて　にぎるばち（子）
夏の夜（よ）に　響きもどりし　太鼓台（父）

トントトン　しゃんぎりばやしで　おくり出す（子）
父と子を　頑張ってねと　おくりだす（父）

母の言う　今ないふるさと　見てみたい（子）
ふるさとを　見せてあげたい　いつの日か（母）

父と子で　伝統つなぐ　しまつり（母）
いちねんせい　はじめておどる　しまつり（子）

よく来たね　三年ぶりの　祖母の顔（子）
運転の　疲れも吹き飛ぶ　郷（さと）の涼風（かぜ）（父）

鹿狼山　山頂からの　良い景色（子）
移り行く　ふるさとの景色　知る山よ（母）

ねぇ母さん　ふるさとの味　教えてよ（子）
ついに来た　故郷の味を　継がせる日（母）

これまでとこれからを繋ぐ想い　～参加者の感想～

◆初めて娘と二人で俳句にチャレンジしました。祖母との思い出話や「来年は、ちまきをどのくらい作ろうか」など、俳句作りから会話が広がって楽しい時間でした。

◆夏休みのお昼には家族で食卓を囲み、「今日は十七字を考えよう！」と、家族の様々なシーンを思い浮かべ、「これどう？」「こういうのおもしろいんじゃない？」と、十七文字を出し合って、毎回笑いの絶えないひとときを過ごしています。

◆夏休みの課題として、初めて親子で作品作りに取り組みました。震災を知らない息子にとっては、ふくしまを身近に感じることができる良い機会となりました。

◆中学生になってから、じゃんがらという伝統行事に触れなくなってしまっていたのですが、作品を作る時に、じゃんがらの音色が聞こえてきて、「小学生の時によく聞いていたな」と、思い出しました。今回、この事業に参加して、小さい頃の楽しかった思い出をよみがえらせてくれるような良い経験となりました。本当にありがとうございました。

◆毎年の実施に感謝です。コロナ禍で様々な時間が一見止まっているように見えますが、成長している子どもたちを振り返ることができる貴重な取り組みです。